

事業コード	09040401		政策コード	09	政策名	自然環境の保全						
事業名	アオコ被害防止対策事業		施策コード	04	施策名	八郎湖の水質保全対策の推進						
			指標コード	04	施策目標(指標)名	その他施策関連事業						
部局名	生活環境部	課室名	環境管理課八郎湖環境対策室		班名	企画・計画推進班	(tel)	1632	担当課長名	倉部明彦	担当者名	佐藤裕之
評価対象事業(計画)の内容										事業年度	平成25年度 ~ 平成25年度	

1. 事業立案の背景(施策目標の達成のために今なぜこの事業が必要なのか)  
 八郎湖については、平成19年に指定湖沼の指定を受け、20年度以降、第1期湖沼水質保全計画に基づく各種対策を進めてきた。しかし、依然として水質環境基準が確保されない状況にあるほか、毎年、夏場にアオコが発生しており、特に平成23、24年度は、これまで見られなかった流入河川の住宅街付近で異臭被害が発生している。このため、引き続き、各種対策を進め、水質改善対策を図るとともに、アオコによる被害を防ぐための新たな対策を講じる必要がある。

2. 住民ニーズの状況  
 ①ニーズを把握した対象  
 受益者  一般県民 (時期: H24 年 08 月)  
 ②ニーズの把握の方法  
 アンケート調査  各種委員会及び審議会  ヒアリング  インターネット  
 その他の手法 (具体的に 県議会、市町村との会議、住民からの要望)  
 ③ニーズの具体的内容  
 より広範囲な河川でシルトフェンスを使った対策と、新たなアオコ対策を実施するよう強く要請されている。

◎把握していない場合の理由及び今後の方針  
 ①理由  
 ②今後の方針

3. 事業目的(どういう状態にしたいのか)  
 アオコの河川への遡上を防止するとともに、被害発生懸念が大きい河川では、破壊式アオコ処理を導入するなど、新たなアオコ対策について実証を兼ねて実施し、アオコの滞留・腐敗による住宅街付近での異臭被害を防止する。  
 (重点施策推進方針との関係) ● 重点事業として要望 ○ その他事業として要望

4. 目的達成のための方法  
 ①事業の実施主体 県  
 ②事業の対象者・団体 八郎湖流域の住民、市町村  
 ③達成のための手段  
 広範なアオコの発生に備え、シルトフェンスを追加購入し市町村に貸し出すほか、河川での新たなアオコ対策として、現場河川での効果の実証を兼ねて、破壊式アオコ処理装置及び高濃度酸素水発生装置を設置する。

④比較した代替手段及び選択した手段の有効性  
 河川に滞留したアオコを上流のため池等の水で流下させる方法は、本来の農業用水利用に伴い実施時期や水量に大きな制約を受ける。適時シルトフェンスを設置することにより、河川へのアオコの遡上を防ぐことができるほか、特に被害の発生しやすい河川での新たな対策として、アオコの破壊処理や増殖抑制に向けた底質改善を図ることができる。

5. 事業の全体計画及び財源		単位(千円)								
順位	事業内記	左の説明		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	全体(最終)計画
01	アオコ被害防止事業	広範囲にわたるアオコの発生に対応し被害を防ぐため、流入河川へのアオコの遡上を防止する貸出用シルトフェンスを追加購入する。		2,846						2,846
02	河川におけるアオコ除去事業	アオコの被害が特に発生しやすい河川において、効果の実証を兼ねて、アオコの破壊処理や底質改善対策を実施する。		18,225						18,225
財源内記		左の説明		21,071						21,071
国庫補助金										
県債										
その他										
一般財源				21,071						21,071

6. 事業の効果を把握するための手法及び効果の見込み

事業の期待される成果 八郎湖流入河川のアオコ異臭被害の防止

指標名	アオコによる苦情の発生した八郎湖流入河川数	指標の種類
指標式	アオコによる苦情の発生した八郎湖流入河川数	● 成果指標 ○ 業績指標

①年度別の目標値（見込まれる成果による指標）

指標	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	最終年度
目標a			0					
実績b	1	5	②データ等の出典					
東北	県及び市町村が受理した苦情件数							
全国								

③把握する時期 ● 当該年度中 10月 ○ 翌年度 月 ○ 翌々年度 月

指標名		指標の種類
指標式		○ 成果指標 ○ 業績指標

①年度別の目標値（見込まれる成果による指標）

指標	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	最終年度
目標a								
実績b			②データ等の出典					
東北								
全国								

③把握する時期 ○ 当該年度中 月 ○ 翌年度 月 ○ 翌々年度 月

④指標を設定することができない場合の効果の把握方法

①指標を設定することが出来ない理由

②見込まれる効果及び具体的な把握方法(データの出典含む)

事業の必要性

**現状の課題及び施策目的に照らした事業の必要性**

八郎湖については湖沼水質保全計画に基づく各種対策を講じているが、大きな効果が現れるまで時間を要し、アオコの発生も続いている。引き続き、各種対策の推進による水質改善を図る必要があるほか、併せて、住民の生活環境と安心・安全を確保するため、アオコによる被害の防止対策を行う必要がある。

**住民ニーズに照らした事業の必要性**

八郎湖では、ここ2年、これまで見られなかった住宅街付近でのアオコの異臭被害が発生し、窓が開けられない、洗濯物が干せないなど、住民生活に大きな支障が生じており、アオコの発生や異臭を防いでほしいという切実な要請がある。

**事業の県関与の必要性**

法令・条例上の義務    内部管理事務    県でなければ実施できないもの

民間・市町村で実施可能であるが、県が関与する必要性が認められるもの

八郎湖については、「湖沼水質保全特別措置法」に基づき、県が「湖沼水質保全計画」を策定し、総合的な水質保全対策を実施している。

政策評価委員会意見

重点事業の適合及び指標・目標値の適合性判定

○ 重点事業   ○ その他